

資料2

京田辺市の社会教育について 各委員の意見総括

目的 (目指す社会)	問題点	対策案 (各委員からの提案)
1 ・より多くの市民に対して幅広い知識、教養及び実践力を身に付ける機会を提供する。 ・学びを通して市民の生きがいやつながりの向上を図る。	(1)一部の市民しか学習の機会を得ていない。特に現役世代や学生の参加率が低い。	①地区公民館でのイベント開催を強化する。 ②講義など手段の一部デジタル化し、学習の機会を増大する。
	(2)イベント、セミナーなどの開催情報が、市民に十分周知されていない。	①各部門、団体で連携協力するなど、企画や発信の強化と情報共有を行う。 ②高齢者向けデジタル教育を強化する。
	(3)多くの市民が参加したくなるような企画が提供できていない。	①専門レベルの企画の定期開催する。 ②特に若い世代のニーズ把握し、市・地域行事を企画する。 ③企画や動員、講師手配などを専任するコーディネーターが必要 ④多くの市民が参加しやすいスペースと企画が必要
	(4)市内の会議室・ホールの絶対数が不足している。また、数百人規模のホールがない。	①市民ニーズの把握に加え、どう使うべきかの観点から必要となる施設の検討 ②民間団体とも連携し、飲食店、団体専用スペースなど含め、人の流れを作る取組と情報共有が必要
2 ・地域住民のつながりを強め、地域活性化することで魅力的なまちづくりを図る。 ・地域の課題解決力を向上させる。	(1)区・自治会、公民館活動、学校連携などにおける地域の核となる人材の不足	①区・自治会、PTA役員、教員のOBなど地域の有力人材を発掘する。 ②地区公民館に専属コーディネーターを配置し、企画を強化する。
	(2)現役世代の地域活動への参加がほとんどない。	①現役世代の地域参加を促進する組織の立上げや現役世代を中心に活動する組織の活性化を図り、横のつながりを構築する。 ②若い世代が多く参加する美化活動や学校行事などと連携し、地域参加のきっかけ作りを行う。
3 ・子どもたちの体験学習機会を増やすとともに、地域とのつながりを形成し、地域活動意識を向上させる。	(1)子どもたちの社会教育を図る上で、地域、学校、社会教育の連携不足	①元教員に学校と地域のパイプ役になってもらう等、連携を強化する。 ②教員増員が急務。教員負担を軽減し、教員の地域意識向上を図る。
	(2)地域を取りまとめるコーディネーター人材の不足	①コーディネーター人材の発掘に加え、スキル教育を実施する。
	(3)ボランティアベースでの地域活動の維持が困難。また、教員不足により教員の負担も限界	①地域人材を中心に、必要なところに専任者を任命する。